こすど公民館報

発行所　小須戸町中央公民館
発行人　成田常信
発行日　毎月15日
一部15円
印刷所　㈲昭栄堂印刷所

町社会教育の父
田中四郎先生を偲ぶ

間野良知

去る七月十二日、八十五才の天寿を終えられた田中四郎先生。

日頃「おとっつあま」という呼び名で親しまれてきたお方だけに、今更先生などと申し上げたら恐らくあの世で苦笑されておられることと思います。

事業家としての田中さんは県内外を通じて余りにも有名でありましたがわが町にとっては社会教育の生みの親、育ての親として偉大なる教育者であったことも亦事実であります。敢えて先生と申し上げる所以であります。

終戦後物資の欠乏、人心の荒廃、文字通り虚脱状態にあった世情を憂えて、いち早く新しい町つくりのための文化活動を提唱されたのが田中先生でありました。幸い多くの同憂の士の賛同を得て小須戸町文化協会が生まれ、その会長に就任されたのが昭和二十二年一月であります。全町民の熱烈な支持と町当局の理解援助によって活動は日を追うて活発になり、その業績は県や他市町村からも注目の的となったのであります。その後県当局のたっての要望により小須戸町公民館へと転身したのでありますが、自らも館長職に就かれて更に内容の充実をはかられたのであります。

当時県優良公民館として前後三回の表彰を受けたことがそれを物語っております。以来町の社会教育の歩みはたゆむことなく現在の花を咲かせております。

文化協会時代は申すに及ばず、一線を退かれてからも社会教育に対する愛情はいささかも変らず温かい物心両面からの御援励を賜ったのであります。かつて私たち若い実践部隊が事業をやって赤字を出した場合など、一言もとがめず私財で埋めて下さった先生でありました。年に一度は私たちを引き連れて温泉場等へ慰安旅行されたことなどなつかしい思い出であります。

昭和五十年現中央公民館の竣工を祝って、全国でも例がないという図書一千万円（田中文庫）をご寄附いただいたことは皆さんのよく知るところであります。

あれやこれや先生に対する思い出はつきるところがありません。

実に庶民的で、近寄る者をいつもにこやかに受入れてくださった田中さんはやっぱり「おとっつあま」が一番ぴったりするようであります。

どうぞ安らかにお瞑りください。

二人の少女　油絵教室　畑中精三

分館だより
横水

七月二十四日、四分館のトップをきって運動会を開催、連日の雨で会場を町民体育館に変更、まず応援席の抽せんから開始直前からの大雨で各種行事の多い日で参加者がへるのではないかと心配されましたが四〇〇名以上の参集でにぎやかな開会となりました。笑いありずっこけあり、団体種目（対抗）の進行につれ熱気充分、得点も接近次第に応援も声高の声援、そろそろ賞品も気になるところ、自由参加種目も工夫がこらされ盛会で楽しい一日でした。成績も一位が水田・横川チームと同点となり、優勝をかけて力の綱引きときまり結果は水田チームの勝ちとなり決着。

一位　水田　一三〇点
二〃　横川　一三〇点
三〃　小向　七〇点
四位　文京町一　三〇点

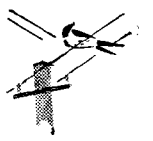
住宅金融公庫
受付開始

期間　8月15日から
9月6日まで

○明細及び中込みは最寄りの取扱金融機関へ。
○役場建設課にもパンフレットが用意してあります。

こすど町の芸術・文化（四）
俳句雑記帳

丸山虚秋



俳句は十七文字の短詩型文芸として、芭蕉の昔より庶民に愛され親しまれて今日に継承されてきているのでありますが、わが町でも俳句が古来盛んであったことは「小須戸町史」にも紹介されているところであります。

詩的素材に恵まれた豊かな自然と風土に培われた郷土の先人の中から数多くの文人墨客が生まれて、地方文化に彩どりを添えていたことは史実に照らして明らかなことであります。

俳句の場合も小須戸の町部を中心に、各部落にも多くの俳人が育ち、近郷近在の同士との交流、研鑽に励んだ貴重な記録や文献が報告されております。祭礼の奉納俳句や献額等に見られるそれらの作品の表現や傾向は、現代俳句に比して時代的な格差のあることは当然のことではありますが、そこには時代を超えた町の風土と土壌の匂いが漂って、まぎれもなく「小須戸俳句」の伝統の香りがするのであります。

大正から昭和の初期にかけての小須戸の俳句は新保に若く有為の人材が多くいて、その主流を成しております。高山一知今もご健在の間野良遊、高山石秋の大先輩が中心となって広く近郷の同志を募って俳句会を結成し、俳詩「松の芽」に続き「鳴子」「うしお」「草蘭」等を発行して、戦前の小須戸俳壇の全盛期をもたらし、有力な地方俳壇として確固たる地歩を築いて、現在の俳句同好会の基盤となり底流ともなって脈々とその志は受け継がれているのであります。

昭和二十二年に俳句同好会が結成され、流派を超えた同好の諸氏が相集い、大同団結して戦後の町の文化興隆の一翼を荷って発足したのでありますが、爾来三十六年の歴史を保って今日に至っております。

戦後の一時的な俳句ブームもやがて去り、経済の高度成長とともに、各種スポーツや娯楽が氾濫する中で、同好会も長い低迷の時期を迎えることになるのでありますが、今は故人となられた前会長の成田流水師の俳句への執念と情熱が遂に会の消滅、解散の危機を守り通して現在に及んでいる事実は他に類例のないところであります。

三十有余年の間、月例の句会は一度も怠らず、毎月発行される句会報「こすど」はこの八月号で通巻三三五号を数えております。また町の公民館報に月々の例会作品が掲載されて紙面にうるおいを添えていることは皆様もご承知の通りであります。そして今年五月、会員の合同句集「踏青」が発刊されましたが、昭和二十三年発行の第一句集「緑園」から数えて実に十六冊目の句集であります。「踏青」発刊記念祝賀句会には、町長始め中央公民館長、文化協会長等のご臨席を仰いで温いご祝辞をいただきました私達の俳句同好会は低調な一時期を経て、今また静かな興隆発展の波に乗っており、同志の精進研鑽の精華は、その作品の水準を日一日と高めて月々の句会報を飾っております。

わが国は今経済大国として世界に冠たる地位にあり、物質文化の進歩、発展は実に驚異的なものがありますが、反面精神文化の後退は、色々深刻な社会問題を惹き起しております。自然の恩恵を無視した人間の エゴが、やがて人間自身を自滅へ導く危機感を痒々と感ずるこの頃ですが、私達は俳句を通して常に自然との対話に心掛け、季節の声に耳を傾けて、豊かな郷土の自然との一体感を深めることを念願としております。

物言わぬ自然こそ、実は最も多くのものを、大切なことを語りかけていることを悟るべきだと思います。

各種大会報告

野球連盟だより

竹井ロ最終回（Aブロック）
（Bブロック）

二年連続優勝
第五回連盟設立記念野球大会

去る六月二十六日と七月十日に参加チーム二十四チームによる、第五回連盟設立記念野球大会が行われ、成績は次のとおりでした。

成績
Aブロック
優勝　竹井機器
準優勝　小向清流
Bブロック
優勝　最終会
準優勝　四葉クラブ
Cブロック
優勝　クイーン
準優勝　ニューホープ
各ブロック上位四チーム計十二チームは会長旗争奪大会に出場。

近郷庭球大会結果

去る七月三十一日(日)に行われました近郷庭球大会では、全参加人数一三四名と盛大に行われました。大会成績は次のとおりです。

男子Aクラス
一位　星名・山田組
二〃　大貫・藤田〃
三〃　小林・今井〃
〃　小柳・藤崎〃
女子Aクラス
一位　内山・高橋組
二〃　内山・小林〃
三〃　武田・高木〃
〃　石田・木村〃
男子Bクラス
一位　佐々木・風間組
二〃　鈴木・小見〃
三〃　小林・田巻〃
〃　遠藤・長井〃
女子Bクラス
一位　青木・小島組
二〃　広野・佐藤〃
三〃　今井・田中〃
〃　菅井・渡辺〃

新潟県中学校選抜総合体育大会

（7・26～27・於新潟市）

○剣道男子団体　三位
予選リーグAブロック二位で決勝トーナメントへ
小須戸中(A2) 3－2 燕中(C1)
（新潟地区）　（新潟地区）
小須戸中 1－4 松浜中(B1)
（新潟地区）　（新潟地区）
松浜中には地区大会の準決勝で敗れての対戦でしたが再度敗れる。

○卓球　女子団体
小須戸中 5－0 新発田中
（新潟地区）　（下越地区）
小須戸中 0－3 三条三中
（中越地区）　（中越地区）
二回戦で惜敗

女子個人戦
6位　加藤久美子
北信越大会へ

軟式庭球（女子団体）
小須戸中 2－1 川東中
（新潟地区）　（下越地区）
小須戸中 1－2 北条中
（上越地区）　（上越地区）
善戦及ばず二回戦で敗退

○北信越大会(於石川県)
卓球女子個人戦
加藤(小須戸)（新潟）0－2 石川県緑中
一回戦で惜敗

「ママ」さん剣士誕生（柔剣道振興会）

恒例の夏季剣道合宿講習会は七月二十九日から八月二日まで雨とむし暑さにたたられた四泊五日でした。参加者も四百名余、当町から小学生十八名、中学生二十名、一般女子一名、計三十九名、朝の五時から夜の練習まで一人の落後者もなくがんばりとおしました。最終日の昇段審査では立派な成績で合格しました。中でも「ママ」さんの諸橋さんは昨年四月半ばから子供さんの送迎に一緒になって練習に励んだ結果、今回の昇段審査には立派な技能で二月の昇段審査で「パパ」さん剣士についで「ママ」きん剣士の誕生をみました。父兄の皆さんからもどしどし後継者が続くよう願っております。

○昇段・おめでとう。
初段(中学生)(於笹岡中)
高山ルミ子・保科寿美子・須藤和幸・井上康雄・佐藤剛・内山裕之・田中郁博・田沢義博・真柄政起・夏川達也・真柄貴則・真柄力・増井浩和

一般
初段　諸橋千恵子
八月一日　於五泉市
三段　田中睦夫
四段　村井　豊
全国高等学校総合体育大会（剣道団体）
浅見和宏君　新潟育高次峰として出場入賞目前で敗れました健斗をたたえたいと思います。

常勝竹井チーム一回戦で姿を消す

第2回会長旗争奪野球大会

七月三十一日、十二チーム参加によるこの大会の成績は次のとおりでした。

成績
優勝　モンターズ（Aブロック）
準優勝　上木戸シュランズ（Cブロック）

山陰地方集中豪雨の被災者救援金募集　小須戸町役場町民生活課福祉係で受け付けています。

文化財調査記

保科家の丸塚

〔その4〕

柏　大治

矢代田調査は久しぶり十七年前になろうか。例によって参加者は少数、矢代田は皇国地誌によれば大同元年の開発とある。平安朝初期である。金山の石仏群や湯殿山も調査した。今回は保科家の丸塚に重点を置く、保科次右ェ門は会津藩からこられた、槍一筋の家柄といわれている。

三代将軍家光の弟が保科正之で（妾の子）正保年間頃会津藩主である。戊辰の仁和寺宮御迎えの際は矢代田村の本多蔵之充（庄屋）年寄金右ェ門、次右ェ門となっている。明治になって田上村田巻家千町歩の百姓。小作者の矢代田地内の支配などされている。

会津藩の殿様の血統としてもそう古いとはいわれない。

丸塚と保科家とは関係がないと思う。会津から来られた時、丸塚のある山林を買われたものと思う。この丸塚も古墳につながるものか、これも疑問である。古墳とは墓である。大和朝廷の頃、大阪の堺市に残っている。仁徳天皇のお墓が最大であろう。昭和十一年だと思う。拝見したことがある。説明者によれば長さ四百七十五メートル、巾三百メートル、高さ三十メートル、三重に広い堀がめぐされて実に雄大なものであった。

千五百年以上もたっているといわれたことを、おぼえている。

そこで丸塚をはかることにした。教育委員会の青木さんが巻尺ではかると、長さ十八米、巾十四米、高さ三・五米（二畝六十坪）だという。頂上には雑木が繁りあまり気持が良くない。

この丸塚について思い出すことは二十年位前のことであろうか、茂林寺の故土田古洞師と小生が頂上へ登り何かあるのであろうと探し廻ったことがある。

霊芝を発見したきのこのようなものであるが、六、七枚取って茂林寺様と半分わけした。仏教に関係のある珍品である。

みがくと光る品物で小生の処で現在一枚大切にしている。

考古学の好きな中学校の先生（名前は忘れた）と湯殿山がこれに類似した小さな塚を掘ったことがある。土器なし、黒曜石のヤジリ二、三枚でたことがある。これは現在不明。また丸塚側の県道から見られる。製鉄跡と思われる。地面がある。現在は家が新築されていて確認することができなかった。

小生の処に鉄糞があるのでいつでもご覧下さい。

さて、結論であるが、丸塚は戦国時代のものよりは古い。古墳につながるものかどうか古墳より以降のものである。文化財などというものではないがとに角、矢代田は古い土地であり。丸塚は興味と謎をもっていると一同確認して調査を終った。

一句「丸塚や矢代田かたる雨あがり」

（昭和五八、七、二七）

各種教室講習会

お知らせ

16ミリ映写機操作技術講習会

左記要項により、十六ミリ映写機の操作技術講習会を行いますので、ご希望の方は、中央公民館へお申し込み下さい。

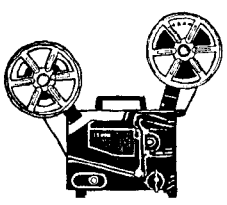
会社、団体等でだれでも免許がないと、不便なものです。

この機会にぜひ受講して下さい。

〈要　項〉

日時＝九月二日～三日
午前九時～午後四時
会場＝中央公民館
受講資料代＝千二百円
その他＝筆記用具、印鑑をご用意下さい。

申込先＝中央公民館
〆切＝八月二十九日(月)
※詳細、お問い合せ等は中央公民館内事務局へどうぞ。



横水分館　水田「子供会」おたのしみ会。八月二十一日（日）廃品回収映写会を実施、多数参加して下さい。

レコード納涼コンサートご案内

むし暑い夜のひとときをレコードを聞きながらくつろいでみてはいかがですか。

ジャズ、クラシックの合同で行います。皆様お誘い合せの上、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

日時＝八月二十七日土曜日、午後七時より
会場＝中央公民館
二階視聴覚室
参加費＝一、五〇〇円
申込期限＝八月二十五日
主催＝オーディオと音楽を楽しむ会

アマチュア無線技士講習会開催

無線クラブ

昭和五十八年度、十一月期無線従事者試験（ハム）が、長野市で開催されます。そこで当クラブでは、試験対策講習会を開催いたしますので、希望者は中央公民館もしくは近くのアマ無線局まで申し込んで下さい。なお、試験申請は当クラブですべて行います。受講料は、三〇〇〇円です。申し込みは八月三十一日まで。

58年第一回カラオケ大会

日時＝九月十一日（日）午後一時より
会場＝小須戸町中央公民館三階大ホール
参加資格＝小須戸町在住で年令は問わず

参加希望の方は、住所氏名、年令、唄う曲名を書いて公民館へ申し込んで下さい。

なお、申し込み曲名の変更は認めません。

〆切＝八月三十一日まで
先着三十名で打切ります
主催＝小須戸カラオケクラブ

第7回ライオンズ旗争奪少年野球大会

参加チーム募集

（小学生以下）

日時＝八月二十九日(月)午前九時より
場所＝中学校グラウンド
申し込み＝教育委員会
〆切＝八月二十五日まで
主催＝教育委員会
後援＝野球連盟

臨時休館のお知らせ

八月二十四日（水）の夜間は臨時休館いたします。

サークルつくしんぼ

会員募集案内

今入れば入会金無料の大サービス中

「つくしんぼ!!　何!!それ?」なんて言わないで知る人ぞ知る（あたり前かな）小須戸における唯一の（?）サークルなんだぞお。

ア～～若い新人（特に女性）でも入ってこないかなあ（男性でもかまわない）と指をくわえて待っている状態。これじゃいかんということでみなさんにサークルの紹介かたがた会員募集でもやろうかということになった次第。

冬のスキー、夏のキャンプ・ハイキング・ドライブ・ボーリングetSいろいろやっています。なしんだそんなことわざわざサークルに入らんでも出来ると思った人ちょっと待ってください。

うちのサークルでなければ出来ないもの～。

『人形劇』ソーナンデス、毎週水曜日午後七時三十分より中央公民館一階サークル室で和気あいあいとやっています。

忙しい人も、忙しくない人も、一人じゃどうもという人は友だちといっしょに遊びにきなせや。

水曜日にあなたをお待ちしてま～す!

図書室より

絵本のよみきかせをやっています

夏休み中、公民館図書室では、図書のおねえさんによる絵本のよみきかせ「なかよし子ども会」をやっています。第一回目は小学生低学年、幼稚園児などたくさんの子どもたちが集まっておねえさんの話に聞ぎ入っていました。火曜日の午後三時三十分より一時間よみきかせをやっています。お友だちをさそって来て下さいね。

第一回目によんだ絵本は次のとおりです。

一、じゃむじゃむどんくまさん
二、ふえふきとうげ
三、月下美人の咲く夜に

図書だより

◇新潟県の山菜　山本　敏夫
◇1生活を豊かに
2教育
3豊かな人生の秘訣
4心を育てる家庭教育　E・G・ホワイト
◇新潟県鳥獣鑑　藤倉　朋良
◇新潟県混虫図鑑上・下　藤倉　朋良
◇ヴァージン・ロード　赤川　次郎
◇探偵物語　赤川　次郎
◇三毛猫ホームズの運動会　赤川　次郎
◇ことしの牡丹はよい牡丹　海老名香葉子
◇シンデレラ・コンプレックス　木村　治美
◇もっと生きたい!　岡田　真美
◇わたしの茶の間　沢村　貞子
◇大なき雲　三浦　綾子
◇返事はあした　田辺　聖子
◇風をください　田辺　聖子

こどもクイズ

さあ!考えて?

つぎの問題に答えて公民館へ。

答え・住所・氏名・学年クラスをはっきり書いてハガキで送って下さい

テーマ

水（温度は℃で）

一問　水は温度が何度以下になるとこおりますか。

二問　水は温度が何度になるとふっとうしますか。

三問　150℃のお湯はあるでしょうか。

前号の正解は

一問野球　二問サッカー　三問テニス

抽選により左記の正解者へ賞品をお贈りします

中央二　長井美希　二年
若葉二　大貫洋介　四年
新町四　藤田　恵　五年
大川五　渡辺哲也　〃
中央一　竹石隆好　〃

中学生文芸

―吟行会・夏の思い出―

捨てられし缶は夏の日物語る
一隻の漁船に鷗つきまとう
七浦の晩夏の波は激しくて

（五十五年・角田）

秋の海眠る大石透いて見え
港縁群なす鰺の腹光る
オレンジと青に分かれし秋の海

（五十六年・寺泊）

秋の空燕別れて影落とす
潮風に麦わら帽子さらわれて
潮風に涼しき音色港縁
秋の浜大波の前の小波消え
釣り人にふぐは捨てられ干からびて

（五十七年・寺泊）

小さな一人の人間が大海原を前にして立つ。彼らは何かを発見し、何かに感動し、何かを考える。今夏の吟行会も近づいた。八月二十六日、二十七日、間瀬海岸で、町俳句同好会の方々の協力指導のもとで実施される。（S）

七月句会報

小須戸町俳句同好会

庭奥の蓑いるあたり立ち入らず　露春
植え替えしベチュニア梅雨に息づけり　紀男
額挿して見なれたるもの新しく　久子
母の声昏れ際優し濃紫陽花　冨沙子
紫陽花の園の石椅子風温み　素糸
豆撒きしごと豆柿の花の散る　松山
紫陽花のひなたひかげを六地蔵　越楼
やうやくに癒えたり夏の始まりぬ　ミナ
紫陽花や野鍛治の窓の閉しまま　可津朋
溝窪を蝌蚪が濁して田は中干し　石秋
花咲きし割にはまゆみ実をつけず　樫男
色白の頬塚似なりサクランボ　芳人
花黄楊の小粒を蝶の見逃さず　虚秋
出来具合父と語りて青田かな　香月
葬送に梅雨の晴れ間となりにけり　英三郎
遠足の昼餉土橋に足垂らし　蒼穹
早梅雨少しあみだの守衛帽　秀穂
花桐や色の異なる差し瓦　庄三郎
十薬や積み埋もれし古瓦　良遊

喧嘩燈籠

我妻清作

三百余年の伝統担い若衆は雁木家並に燈籠押し合う